

## 優秀賞（小学校高学年部門）

和歌山の魅力を利用して

和歌山大学教育学部附属小学校 五年 北山 陽菜

私は、2040年ごろの和歌山をたくさんの人でにぎわい、誰でもくらしやすく楽しい公正社会にしたいです。

和歌山の人口は今、だんだん減ってきています。それは、和歌山には仕事先が少ないから、都会へ行ってしまうのも根拠の一つだと考えられます。和歌山は、東京や大阪などの都会とはまたちがい、自然豊かで空気がきれい、そして山や川が近いためアクティブにごせるなどがメリットだと思います。これを何かに生かし、もっと和歌山を楽しんでもらいたいと思いました。

例えば、和歌山ではみかんが有名です。ですが、農業界では農家さんが減ってきて大変です。農家さんが減ってくると、和歌山のみかんを食べることも少なくなると思います。みかん作りを世界に広めるには、みかんの収穫のイベントを開催したりして、農家は楽しいと思ってもらおうことだと思います。さらに、日本の自分たちだけでなく、外国人にも農業を体験してもらおう施設をたくさん作ると、外国に住んでいる方にも農業の楽しさをわかってもらい、農業に少しでも興味を持って協力が得られると思います。そうすると、和歌山のみかんもいつまでも食べられると思うし、移住してくる人が来て、人口がふえてくる可能性もあります。また、外国人がいっぱいくると、一緒にコミュニケーションを取れてにぎわえると思います。農業の他にも、考えられることはたくさんあります。高齢者、または外国人が外に出る時、安全に出られるためには、ボランティア活動をもっとする、和歌山のメリットを生かして、キャンプ場を作ったりすると、色々な国の人と関われるようになり、楽しくくらせる街ができると思います。

色々な国の人の一人一人が協力すれば、2040年ごろにはもつと良い街ができると思います。そのためには、みんなで仲良く、たくさんの人と助け合い、よりそっていくことが必要だと思います。